

1 同音異義語 このはし、渡るべからず



有名な一休^{いっきゅう}さんの話に、「このはし、渡るべからず」というのがあります。立て札^{たてざ}は「この橋は渡ってはいけない」という意味でしたが、一休さんは「端^{はし}を歩いてはいけない」の意味にとって、橋の真ん中を歩いて渡りました。このとんち話は「橋」と「端」がともに「はし」と発音されることを利用しています。

「橋」と「端」のように、意味は違うけれども発音は同じという言葉^{どうあんいご}を、同音異義語^{どうおんいご}と言います。同音異義語は日本語の中にたくさんあります。たとえば1文字なら「歯」と「葉」、「火」と「日」というような例です。これらの言葉は違う漢字を使うことから、発音が同じでも意味が違うことがわかります。

同音異義語があるのは日本語だけではありません。たとえば英語では、発音も文字^{つづ}(綴り字)も同じになる言葉があります。

- bank(バンク): 銀行、(川の)堤防^{ていぼう}
- light(ライト): 光、軽い
- right(ライト): 右、正しい
- pupil(ピュープル): 生徒、瞳^{ひとみ}

また、発音は同じでも文字が異なるものもあります。

- (サン): sun(太陽) son(息子)
- (ミート): meat(肉) meet(会う)
- (シー): sea(海) see(見る)

日本語の同音異義語には、アクセント(声の高さ)が違うものと、アクセントまで同じものがあります。どちらの場合も、かな文字で書いたら同じになりますが、アクセントが違う場合には実際の発音は違ってきます。標準語では(1)がアクセントも同じ同音異義語、(2)がアクセントで区別できる同音異義語です。

- (1) 雲 蜘蛛、五階 誤解、仙台 千台、女装 序奏、
お食事券 汚職事件、こぶ取りじいさん 小太りじいさん、
薬剤師会 やくざ医師会
- (2) 橋 端 箸、雨 飴、花 鼻、佐藤 砂糖、先生 宣誓、
高校 孝行、秋田犬 秋田県、人影 火トカゲ

同音異義語のアクセントが違うかどうかは、方言(地域)によって異なります。みなさんが住んでいる地域では(1)と(2)の言葉をアクセントで区別するでしょうか、それとも、まったく同じ発音になってしまうでしょうか。

クイズ

ひらがなをヒントに、同音異義語を考えてみましょう。

- | | |
|-----------|-------|
| え 柄、 | き 気、 |
| し 死、 | め 目、 |
| くも 蜘蛛(虫)、 | あめ 飴、 |
| はな 鼻、 | しろ 白、 |
| かわ 川、 | かみ 髪、 |